

世界とのつながりを考えよう

名取 功

秦野市立渋沢中学校

担当教科：英語科

実践教科：英語・選択英語

時間数：7時間+

対象学年：中学3年生

対象人数：157名

カリキュラム

<実践の目的>

1. 私たちの生活の身近なところでも世界と深くかかわっていることを学ぶ。
2. 世界の人々のために私たちに何ができるのかを考える。
上記の2つが主な実践の目的です。私は今、中学3年生の担任で、生徒会担当なので、さらに2つことができると考えています。
3. カンボジアで活躍する日本人や現地の人たちを紹介し、将来の進路選択に活かしてもらう。
4. 生徒会を中心に渋沢中学校からカンボジアをはじめとする世界に何らかの形で発信する。
これらのことを踏まえて実践に取り組みたいと思います。

授業の構成

時限	テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1	修学旅行で外国人にインタビュー	(1) 京都での班別自主行動の際、外国人に英語でインタビューをする。その一部を学習新聞にして、英文を読む。	(1) 基本英語会話 (2) 学習新聞1 (3) ワークシート1
2	ケタイから世界とのつながりを考える	(1) JICA 横浜で8月に行われた高校生対象の国際理解教室を参考に、世界とのつながりを考える。	(1) 写真 (2) 動画資料 (3) ワークシート2 (4) カード(コンゴ内戦のキーワード)
3	カンボジアについて ねらい：カンボジアの様子を学び、歴史や現状について学習する。 さらに私たちにできることは何かを考える。	(1) フォトランゲージを使いクイズ形式で、私が見てきたカンボジアを紹介する。 (2) TVKの映像を見てカンボジアの学校の様子などを学ぶ。 (3) 学習新聞を読みながら、カンボジアの歴史や現状、そして私たちに何ができるかを考える。	(1) 写真 (2) 動画資料 (3) ワークシート3 (4) 学習新聞2 (5) カード(カンボジアの歴史を説明する時のキーワード)
4	ガンジーとキング牧師	(1) 非暴力・不服従の思想、インド独立、差別問題について考える。	(1) ワークシート4 (2) 動画資料
5	少女とハゲワシ ねらい：人命救助か報道かどちらが大切か考える。	(1) 「少女とハゲワシ」の写真を見せ、当時のスーダンの状況を話し、ケビン・カーターがとった行動について考える。	(1) ワークシート5 (2) 動画 (3) 読み物
6	株式会社プレストを招いての講演会	(1) 保健委員会を中心に全校生徒からペットボトルのキャップを集め、	(1) 写真 (2) 動画資料

	ねらい：環境問題から世界とのつながりを考える	油化装置を使った実験を行う。	
7	私たちにできること ～カンボジアで活躍している人々から～	(1) TVKの映像と学習新聞からカンボジアで活躍している人々について学ぶ。 (2) 自分に何ができるのかランキングをつける。	(1) 動画 (2) 学習新聞3 (3) 用紙 (4) カード(ランキングの際に使用)

授業の詳細

1時間目：「修学旅行でインタビュー」

本時の目標：学習新聞を読み、たくさんの国の方が日本に訪れていることを知る。また、日本についてどういう印象を持っているか、英文を読み学習する。

4月から9月中旬の修学旅行まで、選択英語の時間で基本英会話の練習を行いました。約80のQ&Aを覚え、夏休み明けには、生徒一人ひとりAETの先生と会話をしました。目的は、「日頃の英語学習の実践の場」と「世界とのつながりについて実体験してもらうこと」です。京都で班別自主活動を行い、その際、外国人に英語でインタビューしました。生徒たちは、7カ国(アメリカ・イギリス・オーストラリア・フィンランド・イタリア・ドイツ・ロシア)の方にインタビューし、コメントを頂きました。ここでのコメントを新聞にまとめ、選択英語の時間に読みました。

イタリアの生徒からのメッセージ(京都にて)

学習新聞1

To kind foreigners:

Thank you very much for helping my students. It is very kind of you. If you have some time to speak to my students, it will be a great motivation for him (her) to study English from now on.

Please write a brief message about Japan, peace, love, friendship and so on. We hope you will have a nice trip.

Isao Natori
Teachers of English
At Shibunawa Junior High School,
Hadano City, Kanagawa

Please give us some comments here.

*Hi, we are three Italian students. We come here in Kyoto to learn Japanese. We love this beautiful city and we are pleased to meet so many Japanese people that are so kind.
Thank you very much!*

Please give us your name, address or e-mail address if you like.
Students will write letters to you in English.

*WLESSA バネッサ
TERESA テレーザ
SOFIA サウ*

世界とのつながりを考えよう
～ 選択英語 No. 1～
2008年10月28日(水)

【修学旅行でインタビュー】
今年も修学で外国人の方にインタビューを行いました。修学旅行がみなさんにとって、その国、その文化の体験だけでなく自分の英語学習の場でもありたいと思います。自分たちから他の人達と自分の会話をしたいと思いませんか。これから始めるだけでなく、イギリス・フィンランド・アメリカ・ドイツ・オーストラリア・オーストラリア・ロシアの方にも、ぜひ自分のコメントをお願いします。

【What do you think of Japan?】
もし、あなたが「日本についてどう思いますか」と聞かれたら、どのように答えますか。楽しい体験を話してください。少し考えてみてください。
今回、京都に来た外国のみなさんが日本についてどう思っているのか、インタビューした内容をまとめてみました。日本語に訳してみました。

【Messages from foreign people】

1. Japan is one of the most amazing countries in the world. The people are so friendly and helpful. It's a lovely place to visit. Thank you for letting me write to you. Thank Teresa from Sydney, Australia.
REPORT: amazing (アメージング) (アツキ), 素晴らしい (ウツクシイ) (ウツクシク) (ウツクシク)

2. It is my first stay in Japan and I enjoy it a lot. I am very pleased with the kindness of the people and the beauty of cities and landscapes. I really want to come back.
REPORT: pleased (プルーズド) (プルーズド) (プルーズド) (プルーズド)
landscape (ランドスケープ) (ランドスケープ) (ランドスケープ) (ランドスケープ)

3. Hello, meet me at Chikubuji Temple and asked a few questions. He was nice and with a friend. I'm French from Paris. Have a nice trip!
REPORT: nice (ナイス) (ナイス) (ナイス) (ナイス)

4. Hi, we are three Italian students. We come here in Kyoto to learn Japanese. We love this beautiful city and we are pleased to meet so many Japanese that are so kind. Thank you very much! Vanessa, Teresa, Sofia from Italy.
REPORT: Italian (イタリアン) (イタリアン) (イタリアン) (イタリアン)
we (ウィ) (ウィ) (ウィ) (ウィ)

5. We are from Germany. We love Japanese people. They are really friendly and Japanese food is so good. I visited Osaka for 10 days. Please learn English because Japanese is so hard to understand.
REPORT: Germany (ドイツ) (ドイツ) (ドイツ) (ドイツ)

6. We will be in Japan for 4 weeks. We have already been to Tokyo, Nikko and Kyoto. We like it very much. The people are nice and helpful and the food is good.
REPORT: have been to (ハブーン トゥー) (ハブーン トゥー) (ハブーン トゥー) (ハブーン トゥー)
already (アールディ) (アールディ) (アールディ) (アールディ)

【Pictures with foreign people】



メッセージを読んでどう思いましたか。これからも日本に来て良い体験を味わってほしいです。日本語学習の場や方法が少し変わっています。日本語も、英語も、両方で行ってほしいです。ぜひ日本語を勉強してみてください。また、世界とのつながりも考えてください。楽しんでください。

学習新聞を読んだ生徒の感想

- ・ 外国の方々、日本の事を気に入ってくださったみたいで良かったです。日本はあまり良い国ではないと思っていたのですが、そんな事はないんだと分かりました。日本に住んでいると、外国に行きたくなくなったり、うらやましいと思うのですが、外国の方々も日本に憧れたりするんだと思いました。これからも、日本が外国に好かれる良い国であってほしいと願います。
- ・ 外国人は、不思議な人ばかりで、とても面白いと思います。自分たちに興味がないこととかでも興味を持っていたり、自分たちにとっては変わった人ばかりでした。皆、親切な人ばかりで、とても良い人たちだと思います。
- ・ イタリア人でも英語が使えるのが、特にびっくりした。私たちと同じく、英語はイタリア人も勉強しているのかと思うと、とても親近感がわいて、おもしろく思いました。

2時間目：「ケータイから世界のつながりを考える」

本時の目標：私たちが普段、何気なく使っている物の部品がどのような国から来ているのか、またどのような背景から来ているのか学ぶ。

この授業は、JICA 横浜で8月に行われた高校生対象の国際理解教室を参考にして行いました。開発教育協会の『ケータイの一生』を使用し、最初に「ワーク)ケータイクイズ」で生徒の関心を引き、ケータイの普及要因である軽量化、多機能性、低価格、そして大量生産・大量廃棄の4つのキーワードについて生徒と考えました。次に「ワーク)原料の世界地図」で、ケータイにはどのくらいの部品があり、どこの国から原材料を輸入しているのか説明しました。最後に「ワーク)原料をめぐる争奪戦」では、ニュース JAPAN の「混迷するコンゴ 追跡！ゴリラ虐殺の真相」を視聴し、自分たちの便利な生活の代償に、世界では内戦をしている国があることや過酷な労働条件で働いている人たちがいることを学びました。補足として、「週間エコノミスト レアメタル争奪 2009.10.27」(毎日新聞社)を読み、ケータイだけではなく次世代環境対応車などにもレアメタルが利用されており、各国が安定した資源確保にしのぎを削っていることを学習しました。

授業を終えての生徒の感想

- ・ 自分達は何気なく使っていたケータイだけど、その裏では戦争まで起こっている。ケータイを作るためには沢山の国の資源が必要で、そのためにマイナスになることもある。タンタルは、ケータイに必要なけど、その資金で戦争があると思うと戦争に参加しているのと同じじゃないかと思う。
- ・ 何か便利になるとそれだけ何か犠牲になっているんだと思いました。環境問題とかは有名だけど、こんなにも直接国民の人に関わっていることもあるんだということがショックでした。私たちだけがケータイを使って便利な生活を送っているのに、そのせいで内戦が起きて難民の人が沢山いるのはやっぱりいけないことだと思います。世界は貧富の差が激しすぎると思います。木炭ビジネスも、ゴリラが殺されてしまうのは良くないと思うけど、捕まってしまった女性のように子どもが6人もいれば、そうしないと生きていけないことが分かりました。難しい問題だと思います。
- ・ 今のニュースは知らなかったけど、決して、自分達も無関係ではないことが分かりました。私達が求めた豊かさ、便利さが一つの原因となっていて、なのにそれには気づかず、関係がないと思っていたのが恥ずかしいなと思います。「タンタル」というものも初めて聞きましたが、とても身近にあるもので驚きました。外国に行ったことがなくても、どこかで外国とつながっていることを今回見た資料で知りました。たった一つの携帯、パソコンに何カ国もの国が関わっていて、1カ国だけでは何も出来ないなど。けれど、今の豊かさや便利さは絶対に手放せない

いものだと思うので、コンゴなどの内戦をどうするかは、難しいなと思いました。

- ・ アフリカの遠い国での戦争に、私たちの何気ない生活が関わっているなんて思いもしませんでした。日本ではほとんどの人がケータイを持っているし、“あたりまえ”でいるのに...それが知らない人への被害になっているかもしれない。少しショックです。私たちの便利さへの欲求によってゴリラはもちろん、多くの人々の命が無駄になっているかもしれないと。きっと知らない人は沢山いるはずで。誰かに話したいです。家族でも友達同士でも。教えてあげたいです。そして、PCやケータイを大切にしたいです。
- ・ 僕たちが日本で様々なものに囲まれて、便利に生活しているのにちょっと他の国を覗くと紛争や内戦などで家や家族を失い、人並みの生活さえ満足にできていない人たちもいるという事実少し心を痛めました。しかも、その紛争や内戦の原因の根底に僕たちの生活を便利にしている携帯が関わっていると知ってショックを受けました。僕たちが便利に生活している裏には家や家族を失って苦しんでいる人がいる。そういうことを考えたことがない自分が恥ずかしくなりました。なので、これからは自分たちが幸せなのは、裏で苦しんでいる人たちのおかげなんだということを常に考えて生きていきたいと思います。

3時間目：「カンボジアについて」

本時の目標：カンボジアの様子を学び、歴史や現状について学習する。さらに私たちにできることを考える。

いきなりカンボジアの話をして、生徒には「なぜ」という印象が残ると思いました。そこで、最初に「修学旅行での実践」や「ケータイから世界とのつながりを考える」の授業を行いました。生徒には、日本で生活していても沢山の国の人たちとの関わりがあり、今の生活が成り立っていることをはじめに理解してもらいました。

その後、私が今回の研修で学習してきたことをクイズ形式で考えてもらい、補足を付け加えながら生徒に考えてもらいました。

カンボジアクイズ

これは何でしょう？

第1ヒント

第2ヒント

正解は

問題1



この広場は何？



遠くに何が見える？



何に人々は集まっている？



新しいゴミ山(チュンエック)

問題2



この水溜りは何？



子ども達は何している？



何を話している？



不発弾・地雷の処理のあと

問題3



この建物は何？



湖に浮かんでいます



中には図書館があり、勉強したり遊んだりしています



ユネスコ水上寺小屋

クイズの次に、TVK（テレビ神奈川）のニュース番組「ニュースハーバー」の『特集 カンボジアと神奈川～教師海外研修～』を視聴し、カンボジアの中学生や高校生、水上学校の子どもの様子を知ってもらいました。また、学習新聞を使って、主に1866年にカンボジアがフランスの保護領（植民地）になってから、現在に至るまでの歴史を話しました。日本も太平洋戦争中、カンボジアを占領していることにも触れました。そして、今のカンボジアの問題点を3つあげました。1つ目が人材不足（40代から50代の社会をリードするべき人が200万人不足している）、2つ目がインフラの未整備、そして、3つ目が脆弱な法の支配です。最後に、カンボジアの新しい芽「カンボジア・日本友好学園」について話をしました。そして、「私たちができることは何か」を生徒たちに考えてもらいました。

ワークシート2

イメージをふくらませよう！
～カンボジア編～

Q. 何の写真？

1. 第一写真です。 見えて知ってどう思いましたか？

2. 第二写真です。 見えて知ってどう思いましたか？

3. 第三写真です。 見えて知ってどう思いましたか？

4. カンボジアの生活や歴史の勉強をして、学んだことは何ですか。

5. 語っている国や人の名前が、あなたは何がわかりますか？

学習新聞2

世界とのつながりを考えよう
～ 学習新聞 No.2～

はじめに
カンボジアは、フランス・日本・アメリカ・中国などの国々に占領された。今に至っては、1993年フランスがカンボジアを保護国（植民地）としました。1975年には、赤色のカンボジアが占領、日本の敗戦後、再びフランス領になりました。1989年にソ連が崩壊するとカンボジアは主権を回復しました。しかし、ソ連が崩壊した直後、アメリカ軍の介入がきっかけで、内戦が勃発し、中国の文化大革命の影響を受けたポルポト政権が起ります。カンボジア人は多くは、内戦が終ると信じていました。アメリカや中国の援助は、農村部で活動する人々を、貧乏や戦争で苦しめ、殺害されました。現在のカンボジアの発展は、このときの影響を受けています。

カンボジアの歴史について勉強しよう！
カンボジアの歴史について勉強しよう！
カンボジアは、フランス・日本・アメリカ・中国などの国々に占領された。今に至っては、1993年フランスがカンボジアを保護国（植民地）としました。1975年には、赤色のカンボジアが占領、日本の敗戦後、再びフランス領になりました。1989年にソ連が崩壊するとカンボジアは主権を回復しました。しかし、ソ連が崩壊した直後、アメリカ軍の介入がきっかけで、内戦が勃発し、中国の文化大革命の影響を受けたポルポト政権が起ります。カンボジア人は多くは、内戦が終ると信じていました。アメリカや中国の援助は、農村部で活動する人々を、貧乏や戦争で苦しめ、殺害されました。現在のカンボジアの発展は、このときの影響を受けています。

カンボジアで学ぼう
カンボジアで学ぼう
カンボジアで学ぼう
カンボジアで学ぼう

カンボジアの発展
カンボジアの発展
カンボジアの発展
カンボジアの発展

授業を終えての生徒の感想

ワークシート2 4.「カンボジアの生活や歴史の勉強をして、学んだことは何ですか。」

- ・ 日本では考えられないようなことが、本当に多くて、驚くことばかりでした。今、私たちは毎日学校に来て、帰ったらご飯があってという当たり前のよう生活しているけど、それとは反対に子どもでも働いているなんて信じられませんでした。
- ・ カンボジアは、フランスなどに支配されていて貧しい国ですが、子どもたちはみんな、とても楽しそうに生きていてとても輝いて見えました。地雷を踏んで義足になってしまった人も自分で出来ることを何でもやっていて、素晴らしい人だと思いました。
- ・ 勉強できることが当たり前だなんて思っちゃいけないと思いました。他にたくさん勉強できない国の人もいますので、勉強できることが当たり前だと思わず、誇りを持ってやりたいと思いました。
- ・ カンボジアの人々は大変だと思いました。地雷や生活が困難で、しかも子どもが勉強したいのに出来ないのは、普通に勉強している自分としては、かなり驚きました。またこの生活になる歴史の中に、日本が攻めて行ったということは少しショックでした。日本はカンボジアを支援しなければならぬと思いました。

ワークシート2 5.「困っている国や人のために、あなたは何かができると思いますか。」

- ・ 今、普通に勉強している私たちですが、貧しい国には勉強できない子がたくさんいるので、そういう子のために、勉強できる私はたくさん学んで、いつか先生のように貧しい国に行って手助けを出来るようになりたいと思いました。私にできることは、それだと思えます。
- ・ 募金や本をあげるなどして、カンボジアの人々が助かるといいなと思えます。また、この考えが広がってカンボジアに対する意識が変わって、カンボジア支援に力を入れて欲しいと思えます。

4時間目：「ガンジーとキング牧師」

本時の目標：ガンジー、キング牧師から非暴力・不服従の思想、インド独立、差別問題について学び、考える。

第3回目の授業で、ワークシート2の5「困っている国や人のために、あなたは何かができると思いますか。」という質問をしたところ、具体的な取り組みについて書いた生徒は少なく、募金すると書いた生徒が多くいました。また、募金をするにしても、どの団体に寄付するのかわからないようでした。そのため、第4回目以降は、教科書の内容に触れながら将来、私たちに何が出来るのかをもっと深く考えてもらうヒントを与えることにしました。

すでに、教科書『NEW CROWN ENGLISH SERIES 3』（三省堂）のLESSON 6「I Have a Dream」でキング牧師や当時の黒人差別の問題についての学習はしていました。しかし、キング牧師は誰の影響を受け、夢の実現に努力したのかはまだでした。そこで、『知ってるつもり?! 非暴力・不服従～ガンジー& キング牧師』を視聴しながら、ワークシートを完成させました。映像の中に、ガンジーがインド独立の際に必要なと考えたことが出てきます。それは、「一人ひとりの自立こそ独立運動に必要な」や「精神的に自立するには、経済的な自立が必要」等です。このことは、私がカンボジアで会ってきた支援団体の考え方と一致します。また、キング牧師がベトナム戦争に反対した話も出てきます。カンボジアの今の問題を考える上でベトナム戦争が与えた影響は大きいです。

授業を終えての生徒の感想

- ・ 実際、本当にこんなにひどいことがあったのが信じられません。そのくらい今が平和だと思います。もちろん、そうでない国もあるけど、ガンジーのあの非暴力の運動がなければ、今の世界は変わっていて、奴隷が当たり前のようだったかもしれません。ガンジーは素晴らしい人だと思えます。インド人が諦めていたことをたった一人で始めて、皆がついてくるということ

は、それだけガンジーの行動に心を動かされたからだだと思います。一人に出来ることは万人に出来るというのは本当だなと思いました。一人が勇気を出して、皆も勇気を出せば、世界は変わるのだと思いました。

- ・ ガンジーやキング牧師、最初は一人だった行動が、たくさんの人々を動かしたのは、ただ「こうするんだ！」とか言っただけではなく、はじめに自分から行い、出来ることを証明したからだだと思います。しかし、今でもまだ「差別」や「見た目の違い」、「いじめ」など、昔よりひどくないかもしれないけど、似たようなものが続いています。同じ人間なのに。私たちの中で一番身近で似たようなものといったら「いじめ」だと思います。巻き込まれたくない、みんなやっているし...と思うってしまうのが私たちです。しかし、それに立ち向かっていくことがなければ、相手には伝わらないんだと、ビデオを見て思いました。

5時間目：「少女とハゲワシ」(LESSON7)

本時の目標：人命救助か報道かどちらが大切か考える。



左の写真は、ケビン・カーターが撮影した「少女とハゲワシ」の写真です。この写真から私達にできることは何か考えてもらいました。まず、この少女は、この後どうなるかという質問をし、次にあなたがもしこの場にいたら、少女を助けるか、それとも写真を撮るかの2択で考えてもらいました。すると、少女を助けるべきだと人命救助の大切さを主張する生徒が多数を占めました。その後、道徳の教材『きらめき3』で同じ中学生が書いた作文を読みました。続いて、教科書の指導書で、この写真が撮られたときの状況が書かれた部分を読み、フォトジャーナリストとはどのような職業かを伝えました。最後にケビン・カーターが実際に当時の様子を語ってい

る映像を見て、感想を書いてもらいました。非常に難しい問題でしたが、生徒はしっかりと考え、意見を書いてくれました。

授業を終えての生徒の感想

- ・ 目の前で子どもが死んでしまうかもしれないのに、助けなくて写真を撮ったなんて信じられません。いくら“ジャーナリストの仕事”といっても、場合によってはあきらめなければならない時もあるだろうし、見届けてしまうのはかわいそうだと思います。
- ・ 僕は、最初は人命救助を優先したほうが良いと思いましたが、この写真の事やカーターさんの話を聞いて、やはり写真を撮った方が良かったのではないかと考えました。何故なら、この写真や映像など見てみんなの心が動いていたのは確かな事だし、みんながこのような飢餓地帯の事や人達の事を考え何かできないかと考えたいと思います。なので、僕は写真を撮った方が良かったと思いました。
- ・ 助けるということも難しいことだと思います。なぜなら、あの村には、もっとひどい状態の人もたくさんいるし、手の施しようがないと思います。それならば、せめてジャーナリストとしてこのひどい現状を世界に伝えていくべきではないかと私は思います。これらの写真を見て、とても悲惨な状態で見えられなくなりました。実際にこのようなことを見てきたカーターさ

んはどんなにつらかったらうか分かりませんが、こんな中、カーターさんは私たちに大事な事を写真を通して伝えてくれたので、本当に感謝したいです。

最初は、私は何が何でも少女を助けると思っていました。文章や絵、カーターさんの話なんかを聞いていると、人命救助を絶対にするとは言い切れなくなっていました。もし、私が報道ジャーナリストでカーターさんと同じ立場だったら、写真をまず撮ってしまうかもしれません。写真を撮るためにスーダンへ来たんだし、もしあの場で少女を助けていてもこの先生きることができるかは分かりません。だから、助けないわけではありませんが、せめて食料配給センターに連れて行くと思います。ですが、やはり難しい問題です。これくらい難しい問題だと賛否両論でも無理はありません。批判するの分るし、カーターさんの言い分もわかります。でも、この問題で大切なのは批判するか、同感するかではなく、スーダンでこういう問題が起きているということを考えることだと思います。

6時間目：株式会社プレストを招いての講演会

本時の目標：身の回りにあるゴミと思われるものも資源になることを知る。

今後の生活で、分別を心掛ける。

思いやりの心を環境問題へと広げる。

環境問題から世界とのつながりを考える。

11月18日から25日まで生徒会主催の「思いやり週間・集会」を行いました。これは、相手への思いやりの気持ちを大切に、学校生活をより良くしていくことを目的に始めました。当初は、いじめの問題など全校生徒で考えていましたが、今年は、この思いやりの気持ちを世界へ広げようことをねらいとして行いました。例を挙げると、生徒会本部と図書委員会、放送委員会が協力して、『南極がこわれる』（環境問題についての本）『ほんのすこしの勇気から』（難民についての本）の2冊をスライドショーで、ナレーターを付け、帰りの会の時間にTV放送し、感想を書いてもらいました。また、11月上旬に、姉妹都市であるアメリカのパサディナから中学生が来校したので、その時の様子やインタビューしたことを新聞にして発行したりしました。

この思いやり週間の一環として、油化装置を使った環境授業をプレストさんに行ってもらいました。事前に、保健委員会が全校に、ペットボトルのキャップを持ってきてくれるよう呼びかけ、5日間で約1500個集めることができました。講演会では、100年後には海に沈んでしまうといわれているマーシャル諸島やゾマホンさんで有名なベナンでの活動様子を説明していただき、次に生徒が集めたペットボトルのキャップで油を作ってもらいました。最後には、中石油で取れた油で、ランプに火をつけてもらいました。また、発泡スチロールを使ったゴミの減容実験も大変興味深いものでした。実際に、生徒たちが実験に参加できたのがとても良かったと思います。ゴミと呼ばれるものが資源になり、ちょっとした努力が世界の人々のためになることを学ぶことが出来ました。

授業を終えての生徒の感想

- 今日の「思いやり集会」では、環境の問題で沈みそうな国が印象があったけど、特にプラスチックを石油に変える機械がすごいなと思いました。プラスチックを石油に変えられれば環境にも良いし、資源の不足も補えるのですごく良いと思います。でも、技術が発達してもやっぱり一人ひとりの意識が変わらないと環境問題も改善されないと思います。
- いつもとは違う感じの集会。ゴミではなく、資源としてプラスチックを集め、具体的に何になるのか知りませんでした。油になり、火をともしたり、発電機を動かしたり、生活の助けにダイレクトに直結することを初めて知りました。しっかりとゴミ...あいや、資源を分別するというのは大切だと思います。できる限りの努力をしようと思いました。
- 日本を含め、世界各国でゴミ問題があるんだと再認識しました。しかし、ゴミとして捨てられ

るものの中には、作業をすればまた資源として使えるんだということを知りました。今回はプラスチックが石油や軽油になることを覚えました。しかし、そのプラスチックの半分以上は捨てられてしまっているところもあると聞き、もったいないなと思いました。きっと、ゴミとして捨てられている物が、また別の資源になると全世界の人が知れば、ゴミは減っていくと思います。

7時間目：私たちにできること

本時の目標：今まで学習してきたことのまとめと私がカンボジアで出会った人たちを紹介し、私たちにできることを具体的に考えていく。

最初に、第1回から6回まで学習してきたことを振り返りました。日本にいても今の生活をしていくには世界とつながり無しには考えられないことや困っている国や人々が世界にはたくさんいることをもう一度考えてもらいました。次に、私が実際に出会い、カンボジアで活躍している人たちをTVKニュースハーバーの「特集 カンボジアの復興と支援」と学習新聞3を使って紹介しました。また、それぞれの団体のキーワードをあげ、自分がやりたい、または募金したいという団体から順にランキングをつけてもらいました。今回、紹介した団体は以下の通りです。

【団体名】	【キーワード】
シャンティ国際ボランティア会 (SVA)	[住民との学校建設、移動図書館、将来性]
日本地雷処理を支援する会 (JMAS)	[不発弾・地雷処理、住民の安心した生活]
国際ボランティアセンター山形 (IVY)	[女性の地位向上、経済的自立、コミュニティの形成]
職業訓練校	[将来への即戦力、経済的自立]
カンボジア日本友好学園	[教育、社会性、将来性]
クメール伝統織物研究所 (IKTT)	[文化・伝統の継承、女性の自立]
アプサラ機構	[遺跡保護・管理、都市計画(街づくり)]
報道	[世界への発信]
その他	[ここであがったもの以外で、自分達にできるものがあれば書いてください。]

生徒の意見

どのような理由で、順番を決めたのか、書いてもらいました。

シャンティ国際ボランティア会 (SVA)

- ・カンボジアの子どもたちに楽しみの機会を増やし、それと同時に文字を読む意欲や楽しさを感じさせて、子どもを育成していけたらなと思ったからです。
- ・やっぱり、字が読めなかったら、仕事教えても100%理解できないし、字が読めなかったら、不発弾とか地雷とかの掲示板とかを見てもチンプンカンプンだから情報源にならなくなってしまふ。それに、絵本を通して、不発弾とか地雷を教えることによって情報源とかが増え、間接的にJMASの支援になると思った。

日本地雷処理を支援する会 (JMAS)

- ・自分の手で実際に地雷を処理できるか分からないけど、でも地雷を処理しないと、子どもの将来もないし、手や足がなかったら職業にも就けないと思うから。1番は、地雷からかなと思った。

職業訓練校

- ・とりあえず、経済的に自立をしなければならぬし、そのために教育を進めることをしなければ、仕事や技術が向上せず、貧しいところが増え、貧しくなるので職業が必要だと思う。

カンボジア日本友好学園

- ・ 自分は、人間を優先して、その中でも子供を優先した。はじめは、地雷を一番に持っていき
うと思ったけど、子供の目線からいうと学校が楽しいし、良いのかなと思った。パソコンで見
た映像も学校にいる子供たちがみんな笑顔だったから、学園を一番に持ってきました。

アプサラ機構

- ・ 自分は不発弾・地雷処理は危なくて出来ないから、自分でも出来る遺跡保護にしました。しか
も、カンボジアの遺跡は、観光地でお金にもなるから一石二鳥だから、やるならカンボジアの
遺跡を直したいです。他にも、カンボジアの国に本を送ったりして、いろいろな本を読んでも
らいたいです。

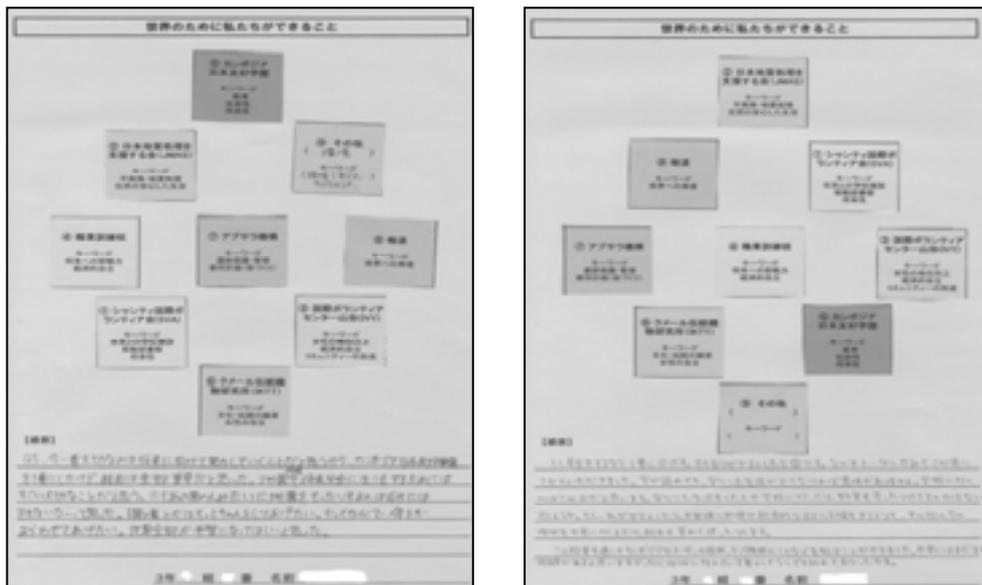
報道

- ・ 前の授業を踏まえて、みんなに現実を知らせることで、たくさんの人々の考えや思っていた事
などに大きな影響を与え、自分たちの間違った生活、考え、思いを見直させる事ができ、より
他の国との関係を築いて行けると思ったからです。

その他（医療）

- ・ 小さい子供たちには本を読ませたり、たくさん勉強させてあげたいけど、やっぱりその前に元
気にしてあげたい。ちゃんとした食事、きれいな水、そしてワクチンなどの医療。お医者さん
に診てもらった方がいい人は、すごくたくさんいて、それを治療するのは本当に大変だと思
うけど、これから将来を背負っていく子どもたち、若い人たちからどんどん元気にしてあげたい。
「元気があれば何でもできる！」

生徒が作成したダイヤモンド・ランキング



最後に、自分で作ったダイヤモンド・ランキングと友だちのものを比較してもらいました。その
ときの感想です。

- ・ 他の人の意見は考えさせられたり、うなずかされた。
- ・ 私の友達は教育のことを考える人が結構多かったです。考えが違うというのもいいと思います。
- ・ 私は国の経済の方が大切だと思いましたが、私の友だちは、今は男女差別がない世界、人の方
が大切と言っていて、心を動かされた。
- ・ 字を学ぶのが1番と言っていましたが、絶体、命を優先させるべきです!! と争いになりまし

た。人は皆違うんだなぁと思った。

- ・ 皆、まず地雷を1番にしていたので、やっぱり命が一番なのかなぁと思った。

成果と課題

今回、事前・事後研修を受講できたこと、実際に現地に赴き様々な場所を訪問できたことに感謝しています。今まで単元ごとにバラバラに教えていたことが、一つの関連性を持って教えることができました。また、レポートにまとめることで、生徒たちがどのように感じて、考えたのかを整理することができました。education(教育)の語源はラテン語の“引き出す”という語からきていますが、これらの授業を通して、生徒から様々なものを引き出せたと思います。

この授業を始めて、第3回の「カンボジアについて」を終えた頃、放送委員長と図書委員長が、今度の「思いやり週間」のときに、『ほんのすこしの勇気から 難民のオレアちゃんがおしえてくれたこと』をナレーター付でTV放送したいと言ってきました。ちょうど英語の授業で似たことをしているから、というのが理由でした。正直、とてもうれしかったのですが、実際に朗読すると15分と長く、不安がありました。しかし、彼女たちの強い要望で、生徒会本部と協力して取り組むことにしました。放送を終えた後、全校生徒に感想を書いてもらいました。3年生の中には、十数名、今回の授業と関連付けて感想を書いてくれました。その一部を紹介します。

「ちょうど英語の時間で難民についてやっていたので、話に共感する事が出来ました。オレアちゃんのお兄さんが死んだと言う話を聞いた時、かわいそうだなと思いました。目の前で身内を殺された時の気持ちは計り知れません。それは、私が日本人だからだと思います。日本は本当に平和だなと思います。この平和がずっと続いて、いつかはオレアちゃんのような難民の方々も移り住んで幸せに暮らせるような国になって欲しいです。」「難民オレアちゃんを見て、選択英語でも学んだように、世界中には戦争などで難民と呼ばれる人々がたくさんいることがわかります。何も悪くない人が殺され、家を追い出されととてもかわいそうです。この難民のオレアちゃんでもそうです。行方のわからなくなった長男、病院へ通えなくなってしまって死んでしまった次男、目の前で撃たれて死んでしまった三男、本当に悲しいです。私にもできることがあるなら、募金などで助けたいです。」

私は、以上のことから、きっかけがあれば、生徒たちは、物事を深く、しっかりと考えてくれるということを学びました。実践の目的の4番目は、まだ途中ですが、3番目の目的は着実に芽生えてきています。第7回目の授業のランキングの意見の後に、さらに付け加えてくれた生徒がいます。

「様々な活動があるけれど、その中で頑張っている人々がいます。その人たちを尊敬し、私も、私にできる何かをやっつけていこうと思います。」「まだまだ、知識の少ない私ですが、いろんなことを勉強して、支援できるようにしたいです。」「私もいろいろな人にこういうことを伝えることのできる仕事やボランティアをしていきたいと思いました。」「英語や他の言語を勉強して、困っている子どもたちを支援できればいいと思いました。」

最後に今後の課題ですが3つあります。1つ目は、日本を含めた世界の事柄を常に伝えていく事の必要性、2つ目がなぜ勉強しなければいけないのか、その意義も教えていきたいと思います。そして世界に向けて、私達が何を具体的にできるのか、生徒と一緒に考えていきたいと思います。

参考資料

- ・ 『ケータイの一生』 開発教育協会
- ・ 藤原 幸一『南極がこわれる』ポプラ社
- ・ 『NEW CROWN ENGLISH SERIES NEW EDITION 3』 三省堂
- ・ 「週間エコノミスト レアメタル争奪 2009.10.27」毎日新聞社
- ・ 神奈川県公立中学校教育研究会道徳教育部会 神奈川県の道徳『きらめき 3』KIRAMEKI
- ・ 日本国連UNHCR協会ボランティア・絵本プロジェクトチーム

- ・ 『ほんのすこしの勇気から 難民のオレアちゃんがおしえてくれたこと』 求龍堂
- ・ ニュース JAPAN の「混迷するコンゴ 追跡！ゴリラ虐殺の真相」 フジテレビ
- ・ ニュースハーバー「特集 カンボジアの復興と支援・カンボジアと神奈川～教師海外研修～」
テレビ神奈川
- ・ 知ってるつもり?! 『非暴力・不服従～ガンジー & キング牧師』日本テレビ
- ・ 『メディアは今一人命か報道優先か・ピューリツァー賞・写真論争』NHK教育

